

e-ビーフNEWS 北の牧場から

October 2021

十勝は秋

お日様の上るのが5時半過ぎと遅くなってきました。朝はひとけた台に突入寸前。空気はぶるっとヒンヤリ、半袖ではちょっと無理かな。それでも日中は25℃を超える日も。寒暖の差が大きいですね。牧場作業していても朝はツナギ、直ぐに半袖に着替えます。朝方は霧が発生することがしばしば。十勝を囲む日高山脈の稜線が霧の雲からぼかりと、蒼く連なって顔を見せません。秋のひと雨ごとに、気温が下がってゆきます畑では、収穫作業が佳境を迎え、トラクターやハーベスター、収穫用ダンプが動き回っています。今は、豆の収穫作業真っ盛り。黄色になった豆の畝を収穫期がしずしずと収穫してゆきます。牧場のデントコーン収穫は、これから。受け入れ準備は、整いましたが、雨降りで順延しています。牛たちのパドック放牧も、水抜けが悪くなり泥沼状態です。先日大雪登頂した方から今年の紅葉は素晴らしいとのこと。ここ数年、いまいち紅葉でしたが、周りの紅葉もあてやかに感じます。



活動のお知らせ

10/28(木) 北海道畜産公社 第11回北海道肉専用種枝肉共励会 とかちプラザ 第18回資源循環型肉牛生産シンポジウム2021

- 1) 13:40-14:10 基調講演「持続的な畜産物生産を目指して～みどりの食料システム戦略～」
講演者：北海道農政生産振興局畜産振興課主幹 叶 拓斗氏
- 2) 14:10-14:40 話題提供1. (生産者)「北大静内研究牧場の持続可能な畜産を目指して」
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション 静内研究牧場牧場長 准教授 河合 正人氏
- 14:40-15:10 話題提供2. (流通関係)「消費者目線で持続可能な食料生産システムを考える」
生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合 商品部統括マネージャー 前田 陽一氏
- 15:20-15:40 話題提供3. 「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」および授賞式
司会：帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者
- 3) 15:50-16:50 パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表 ※例年行っている意見交換会eビーふ 試食会/現地検討会中止いたします
参加者募集中 道立総研機構 畜産試験場 肉牛G 國重 享子
Tel:0156-64-0624(直通)Fax:64-3212 e-mail: kunishige-kyouko@hro.or.jp 環境リサイクル肉牛協議会 ホームページにちらし掲載中

NEWSばかり読み

- 国際農研 小麦窒素肥料6割減でも多収確保 温室ガス削減へ
9/2: 指標の見直し
- 農林水産省 農業個人経営体100万割る 規模拡大へ9/2: 集約化良し悪し
- 世界の保険会社 石炭火力事業から損額保険契約中止9/2: 金融圧力
- 植物肉会社DAIZIに三菱ケミ、味の素等大手からの出資相次ぐ9/3: 流れか
- ファミレスデニーズと静岡県内牧場でコーヒー粕の飼料化契約
9/3: 広がれば
- 7月通販売上高6%増 健康食品がけん引9/4: 基本は健康
- FAO 8月食料品価格3.9ポイント上昇 国際価格高騰
9/4: コロナ禍で逼迫
- ブラジル(世界牛肉輸出の1/4)で非定型BSE発生9/7: 20年経っても
- 牛原皮 2年9か月ぶりに高値 米中の消費増9/7: 産廃ならずに済みそう
- ジャガイモ作柄不良 主産地北海道で高温干ばつ長期化で災害級
9/8: イモが
- 家計調査7月 食料支出好調継続 オリパラ巣ごもり効果9/8: 明確に
- 豚熱発生3年で養豚農家2割廃業へ9/9: 集約化に
- 輸入穀物高騰 国産小麦に引き合い9/10: やはり自給率
- 農林水産省 20年温暖化により農業影響調査 乳牛乳量低下
9/11: 避暑対策必須
- 農業新聞調査 有機食品普及に割高感が消費停滞に
9/15: 有機生産もコスト減を
- 農研機構調査 赤身牛肉に対する消費者意識、流通業者とのギャップ
9/15: ミスマッチ
- 農林水産省 中山間直払で要件緩和以降も伸びず 高齢化進行
9/16: 根本改善
- パイオニア ゲノム編集食品ギャバ4倍含むトマトを発売
9/16: 遺伝子組換え進行
- 8月食品輸出3割増 中国向け72%増伸び拡大9/17: 回復度が反映

- 国際農研 牛ゲップメタン抑制にナッツ殻、ギンナン、ミドリムシ配合開発へ
9/17:
- 全農配合飼料 10-12月価格1250円下げ9/18: まだ高水準
- 米国物流 海上運賃6倍 コロナ禍で物流網混乱9/18: 混乱続く
- 京大 ゲノム編集のマガイ発売へ 食品2例目9/18: すずむ浸透
- 農林水産省 少額食品輸出拡大 越境EC伸びる9/20: 流通の多様化進む
- 20年農作物作付面積 400万ha割れ 野菜・飼料作物減
9/20: 農業の衰退化
- 総務省 働く高齢者600万人 4人にひとり9/20: 働くね
- 生乳需給の緩和傾向強まる 給食停止や低温影響
9/21: 高齢者もミルクを飲モオー
- 環境省 脱炭素事業に出資9/21: 旗振り強める
- 認知症が所有する空き家21万戸増加傾向9/21: 社会問題化
- 国産牛肉在庫増加 過去5年間で最多 外食需要低迷長期化
9/22: 需給バランス壊れる
- 熊本県畜産研 あか牛20年ぶりの種雄牛を復活 遺伝子の多様化図る
9/22: 必要
- 国連で初の食料サミット 日本 みどり戦略発信9/25: 言っちゃった
- 転作物として子実用コーン栽培 都府県で拡大 飼料国産化需要拡大か
9/27: 良い傾向
- 岩見沢市、北大 日立 賞味期限切れ酒やナタネ粕から発電開発農業利用へ
9/28:
- 外食8月上 再び悪化 居酒屋パブ70%減9/28: 頑張れ飲み屋
- 福島県大熊町(福島原発立地)再エネ導入の新会社設立 エネの地産地消
9/29: 出来るよ
- 製粉大手、全農 多用途小麦生産開発着手 8割輸入の小麦を国産化へ
9/30: やろう
- 豚熱ワクチン接種地区から、域外で種豚生産へ9/30: 生産リスク分散
- 日生協調査 エシカル消費に関心度過半数9/30: 意識と消費のミスマッチ

ホルス

ホルス相場ほぼ横ばい状況。
 出回り頭数は相変わらず少なく枝相場は強気を維持している。
 販売状況は9月までは鈍く、上位部位赤身も停滞し、切落しも鈍かったが、気温低下とともに徐々に回復基調。
 10月より緊急事態宣言解除され、外食業態への期待感も強まる。
 特にカタロースの秋冬需要への引合問合せは強まっており、頭数が少ないために、数量確保が困難な状況。
 販売状況回復期待感も、出回り頭数少なく部位によっては欠品可能性あり。

経産牛

経産牛相場は上げ下げ繰り返しており、相対的には若干の下げ基調。
 販売状況は外食向けの原料消化が鈍いために全体的に在庫余裕あり。
 冷凍チルドともに販売状況は渋く、パーツ・牛正肉ともに不調。
 9月末は各社半期決算も控えており、牛正肉等の冷凍品は在庫整理の意図から安価でのスポット販売情報も増。
 スライス原料として、唯一カタロースが好調維持。
 10月より緊急事態宣言解除から外食、加工スジへの原料消化促進可能性もあり、さらに輸入ビーフの高値からの代替需要も多少可能性あり、状況によっては一気に動き回復する可能性もあり、期待感強い。

左先生の畜産学研究NEWS

1. 畜産技術795号(2021.9)

研究レポート1)牛肉の理化学分析値からの分析型官能評価および知覚特性値の推定(佐々木整輝;家改事業団)

牛肉の価値評価は枝肉格付け評価が中心でしたがおいしさを表す「食味性」を加えて客観的に評価する方法を検討しました。従来の分析型官能評価と理化学分析を組み合わせ、牛肉の水分・粗脂肪・粗タンパク・糖類・アミノ酸・脂肪酸測定値の回帰分析、主成分分析から知覚特性マップを作成し、これにより「食味性」の評価を加えた牛肉価値基準で多検体対象の評価が可能になりました。

研究レポート2)黒毛和種牛の正常産と難産における母牛骨盤と産子サイズ比の比較(宮崎大)

肉用子牛の難産・死産は経済損失が大きく、難産の予測法を検討しました。宮崎県の黒毛和種母牛1,200頭について正常分娩群と死産・帝王切開等の難産群に分けて座骨幅と腰角幅を計測、骨盤径径は来スぺルビメータで、胎子の蹄冠幅は超音波診断装置で測定しました。難産母牛は骨盤腔の縦径が小さく、産子の蹄冠幅や生時体重が大きい傾向が見られました。

国内情報3)黒毛和種、褐毛和種(高知系・熊本系)及び日本短角種の遺伝的能力の推移(井上慶一;家改セ)

家畜改良センターは全国の和牛改良動向をデータベースの分析から情報公表しています。2020年と畜データは黒毛和種389万、高知系褐毛0.69万、熊本系褐毛11万、日本短角2万件で、黒毛和種は雌雄とも改良の進

展が見られ、日齢枝肉重やバラ厚の改良などは顕著で、ロース芯面積やBMS値の雌雄差は縮小しています。日本短角種や褐毛和種の両系統とも生産頭数が少なくバラツキが大きいものの概ね順調な改良が進展しています。

2. 日畜会報 92: 3(2021.8)

1)鹿児島県産黒毛和種で発生する死産における遺伝的パラメータの推定(小山秀美他、鹿大院農)

鹿児島県の黒毛和種子牛の死産は3年間で4,500件。得られた出生子牛のデータから死産の遺伝的パラメータを推定しました。それによる死産率は2.0%となり外国品種の死産率と較べても高くなく死産の遺伝的要因の影響は小さく、子牛の死産は近交係数の大きさや分娩季節、胎児と母牛の骨盤の物理的不均衡などの要因の影響が考えられました。

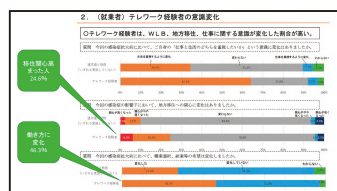
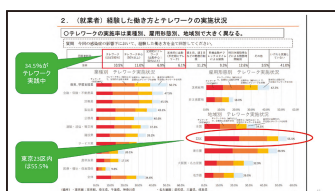
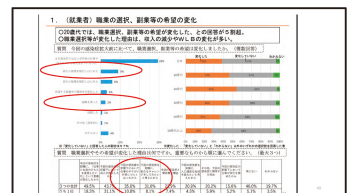
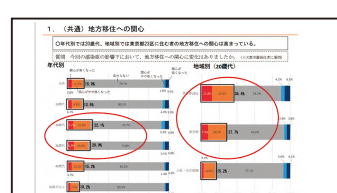
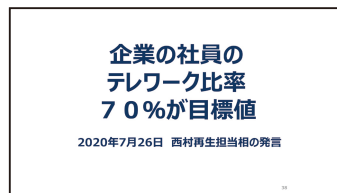
2)解説記事:第128回大会共催シンポジウム「ポストコロナの日本の畜産」(日畜学会, 日本学術会議, 日本畜産アカデミー)

ポストコロナの牛肉生産(入江正和;家畜改良センター)コロナ禍前の日本の肉牛生産は国内外の堅調な食肉需要で牛肉の価格上昇・高止まり、肉質も向上し、子牛価格も高騰しました。Covid-19のパンデミックで世界経済が低迷し、外食の落ち込み中食・内食の伸びはわが国の牛肉生産の目標に変化を与えました。ポストコロナは以前と同じに戻ることはなく、国産牛肉の内需強化への取り組みと共に国際競争を勝ち抜く技術の向上など多様な牛肉生産構造への変革が望まれます。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2020

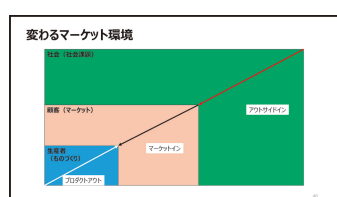
話題提供3. 「Withコロナの視点～消費者からみた新スタイル」 全5回シリーズ④

(株)グロシー 代表 北村貴氏



コロナ禍で、働き方改革は加速化、多様化し自由になっていく！
 ~Beyond the Borders~

④進むエシカル消費 (Moving towards ethical consumption)



食肉業界もエシカル消費の流れ (Ethical consumption trend in the meat industry)

転載・再利用は固くお断りします